

黒島天主堂



明治30（1897）年に来島したフランス人・マルマン神父が建設に着手し、信徒の献金と労働奉仕により、同35（1902）年に完成。ロマネスク様式の外観で建築には40万個もの煉瓦が用いられ、基礎には黒島御影石、祭壇床には有田焼のタイルなどが用いられています。内部の天井はリブ・ヴォールト形式（こうもり天井）と呼ばれる独特の形状をしています。県を代表する明治期の大型煉瓦造りの教会堂として、国の重要文化財に指定されています。（黒島町）

平瀬・立神地区煉瓦倉庫群



現在、米海軍佐世保基地や海上自衛隊、佐世保重工業(株)などの敷地となっている平瀬・立神地区には明治20年代から大正時代にかけて造られた多数の煉瓦造り倉庫が現存しています。この一帯の煉瓦造り建築群は質、数ともに国内で最も充実した集積地であるといわれています。写真は米海軍佐世保基地内の煉瓦造り倉庫群。（平瀬町）

西九州倉庫株式会社
前畑1号倉庫（旧第5水雷庫）



干尽地区には大正時代から昭和10年代に建てられた軍需倉庫・工場が多数現存しています。写真は旧魚雷倉庫で、内部の柱などは鉄骨や鉄筋コンクリート造りで、壁面は石積みという独特の構造をしています。（干尽町）

佐世保市民文化ホール
（旧佐世保鎮守府凱旋記念館）



佐世保鎮守府凱旋記念館

大正十二（一九二二）年五月、第一次大戦中に佐世保鎮守府所属艦艇が地中海などで活躍したことを記念し、佐世保鎮守府凱旋記念館（現佐世保市民文化ホール・平瀬町）が建設されました。

終戦まで海軍の催しや合同葬に利用され、戦後は米軍に接収されて劇場や映画館として使われていましたが、昭和五十七年、市に譲渡されたのを機に、市民文化ホールとして再生され、市民の演劇や音楽の発表の場として親しまれています。平成九年に国の登録有形文化財となりました。

●佐世保の近代化遺産に関するお尋ね
市教育委員会社会教育課
☎0956・24・1111

近代化遺産の宝庫

佐世保には、当時の歴史を物語る多くの近代化遺産が残っており、その集積率は日本一ともいわれています。これらは本市の歩んできた歴史を物語る貴重な証であり、本市の個性ともいえます。これらを後世に残していくためには、さまざまな課題もありますが、新たなまちづくりの中で活用していくことを考えていきたいと思えます。

山の田浄水場
・第2ろ過池



岡本貯水池
・第2貯水池



早岐駅駅舎



特集 佐世保の近代化遺産

早岐駅の開業

明治三十（一八九七）年七月、九州鉄道会社（現九州旅客鉄道株式会社）によって、佐賀県武雄―早岐間の線路が開通し、早岐駅（早岐一丁目）が開業しました。トンネル工事などに時間がかかり完成には二年を要しました。その後すぐに早岐―佐世保、早岐―大村間の工事が始まり、同三十一年一月には両線同時に開通しました。これらの工事期間中、早岐は工事人夫をはじめ多くの人が集まり、今までにない賑わいが続いたそうです。

佐世保―長崎間には当時十一の駅がありました。その姿で駅舎が残っているのは早岐駅だけで、明治期の洋風駅舎の特徴を伝える貴重なものとなっています。

初めての水道水

明治三十四年、既存のかんがい用ため池を改造して旧海軍により岡本貯水池（十文野町）が建設されました。第一貯水池と第二貯水池があり、第二貯水池は石造りで真円形の美しい形をしています。これは湧水や雨水などを効率よく集めるための構造であると考えられています。

市民はこの貯水池からの、もらい水により、初めて水道水を使うことができました。

この貯水池は本市の水道黎明期を伝える構造物として、また、全国的にも早期に完成した水道施設として、貴重な近代化遺産となっています。

明治四十一年には山の田地区に旧海軍により貯水池と浄水場（現山の田浄水場・桜木町）が建設されました。本市はこれに合わせ市内に水道管を敷き、旧海軍から浄水の分与を受けました。これにより市民は初めて蛇口から水道水を使うことができました。

この施設には本市の水道の歴史が凝縮されています。特に明治・大正・昭和期の築造物は、それぞれの時代の特徴を色濃く残しています。このように三時代にわたる築造物の変遷を一度に見られる施設は全国的にも珍しいといわれています。

佐世保要塞

明治三十三年、鎮守府など佐世保の軍事施設防衛のため、旧陸軍佐世保要塞が設置されました。要塞砲台は同三十一―三十四年の間に高後崎・小首・丸出山・面高・石原岳・牽牛崎・前岳の七カ所に築かれました。これらの砲台は廃止後ほとんど人の手が加えられていないため、その保存状態は非常に良好で、築後百年を経た今もほぼそのままの姿で山中に眠り続けています。

丸出山堡壘砲台観測所



丸出山堡壘砲台は明治34（1901）年に完成した佐世保要塞の主力砲台で、主に敵艦船の攻撃を目的としていました。写真の観測所は弾着観測のために砲台付近の山頂に設置されたもので、当時の上屋（装甲掩蓋）がそのまま残る全国的にも貴重なものとなっています。（俵ヶ浦町）

世知原炭鉱資料館
（旧松浦炭鉱事務所）



松浦炭坑の事務所として大正初期に完成したといわれています。砂岩の切石を用いた洋風建築で、県北地域唯一の石造りの洋館として県の有形文化財に指定されています。（世知原町栗迎）